

令和 4 年度博多湾環境保全計画推進委員会ワーキンググループ報告

環境局環境調整課

1 ワーキンググループの趣旨

「博多湾の環境保全・創造に向けた市民参加のあり方」をテーマとして、ワーキンググループ委員が所属する各団体における博多湾関連の市民参加型活動事例の発表や行政の取組みの共有を行い、今後の市民参加型施策への活用等について意見交換を行った。

＜ワーキンググループ委員＞ 五十音順、敬称略

井上 嘉人	NPO法人はかた夢松原の会	副理事長
小野 仁	日本野鳥の会福岡支部	支部長
川口 栄男	九州大学 名誉教授	※ワーキンググループ長
中村 雅之	(株)海の中道海洋生態科学館	館長
半田 孝之	福岡市漁業協同組合伊崎支所運営委員会	会長

2 開催日時等

令和 4 年 11 月 18 日（金）14:00～16:00 オンライン併用開催

3 活動事例発表団体

- (1) NPO法人はかた夢松原の会（発表者：井上委員）
- (2) 日本野鳥の会福岡支部（発表者：小野委員）
- (3) マリンワールド海の中道（発表者：中村委員）
- (4) 福岡市漁協伊崎支所（発表者：半田委員）
- (5) 川口グループ長
- (6) 福岡市港湾空港局 みなと環境政策課
- (7) 福岡市環境局 環境調整課

4 意見交換

(1) 市民参加や市民参加型活動における課題

- ・市民参加のあり方は博多湾環境保全計画でも大事なテーマであり、これからどういうところが求められているのか、博多湾に興味を持っていない人をどう振り向かせたらいいのかなどが課題と認識している。
- ・各団体や個人が既に様々な活動を実施しているが、それらの活動をアピールできる場がない。
- ・スタッフ不足により、行政や企業など多方面との調整が難しく、活動実施にあたり必要となる設備等の提供などの協力が得られにくい。
- ・高齢化が進む中、新型コロナウイルス感染症の影響もあり活動の実施自体が困難となっている。

- ・小学生くらいまでは海に来るだけで喜ぶ子どもが多いが、大人になるにつれてマリレジャー以外では段々と海から離れていく傾向にある。

(2) 今後の市民参加・市民参加型施策への主な意見

- ・一番大切なのは体験であり、現地で見ってもらうこと。触れてもらうこと。
- ・時代に即したS N S・動画の活用も有効である。
- ・市民により多くのことを知ってもらうためには、一つの分野だけでなく、博多湾に関する様々な分野について、それぞれの企業や団体が強みを持ち寄って総合的な取組みを実施する必要がある。
- ・市民参加型イベントにおいて、子どもをターゲットとすることは、親も含めた多くの参加者の獲得につながり、また、幼少期の環境学習の観点からも重要である。
- ・年1回は博多湾について見る・調べる・食べるなど広い視点の人がたくさん集まる場が必要である。広報だけでは難しい。
- ・多くの団体や個人が様々な場所で活動しているが、それぞれの力を集約できる拠点となるような場所が1か所あるとよい。そこを基点に活動を展開していく。
- ・福岡市は博多湾というとてもよい財産を持っているため、市民に対して博多湾に関する面白い話題を提供するなど、博多湾に興味を持ってもらうための取組みを継続する必要がある。
- ・学習というよりも楽しませることが大切。「知ろう×遊ぼう×食べよう」というテーマがよい。
- ・博多湾に係る団体等で情報交換会を行い、実施している活動や保有設備等の情報を共有できれば参考となるだけでなく、団体間で助け合うことも可能となる。
- ・「博多湾を守る」という言葉のイメージが湧きにくいいため、象徴的な生き物など何かモチーフとなるものがあると市民が親しみやすい。